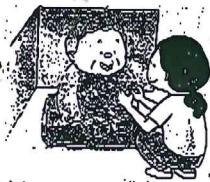


静内ケアセンターだより 12月6日号



軽度者の総合事業移行見送り

第69回社会保障審議会保険部会に厚生労働省は2018年度介護保険制度見直しに向けた意見書素案を示し、大筋で了承された。焦点だった給付の在り方は、軽度者（要介護1と2）への訪問介護と通所介護の介護予防・日常生活支援総合事業移行を見送るとした。

平穏死の第一人者です

西宮の「つどい場さくらちゃん」こと丸尾多重子さんの所に行く時には時間を作わせて呑み語る長尾和宏氏は同志である。

我が師である【故】山田 茂医師は「病院は死ぬ場所ではない」を残し、富部医師はそれを引き継いで在宅やグループホームでの看取りを行っている。長尾先生の平穏死の実践が行われているとも言える。

自宅であれ、グループホームであれ医療と介護の連携こそが不可欠であり、その上において死を受け入れ、邪魔しない生活支援なのです。グループホームでの看取りこそが介護の醍醐味であり、傷み苦しむことなくハッピーな旅たちを共感しよう。集まれ

<p>看取りテーマに 長尾氏講演など</p> <p>来月28、29日に 札幌で自主研修</p> <p>道GH協</p> <p>道認知症グループホ ーム協会は、自主研修 シリーズⅢ「グループ ホームでの看取り」を 2017年1月28、29 日に札幌市厚別区の北 星学園大で開く。</p>	<p>28日午後1時から、 兵庫県尼崎市で複数医 師と年中無休の外来診 療・在宅医療を開設し 500人を超える患者 を自宅で看取つてき た、長尾和宏長尾クリ ニック理事長が「がん 認知症、死ぬまでハッ ピー」と題し講演す る。</p>	<p>について」を釜谷義G H花巻総合施設長が講 演するほか、西塔昭代 G H そ う 施 設 長 による 実践報告、グループワ ークを予定。</p>	<p>すべての介護関係者 が対象で定員150 人。参加費5000円 (非会員1万円)。申し 込みは13~15日。問い合わせは(011-2 08)33320。</p>
--	---	---	--

Wさんの懇ぶ会

無宗教での「偲ぶ会」「お別れ会」は初めてであるが、家族の希望する在り方であり、昨夜は家族と職員により行われました。84歳の生涯でしたが、薬剤師であったので自分の体に対する知識もあり、発病に対する医療拒否に困惑された事もありました。Wさんの強い意志であり生き方でもありました。2年前のある日治療を認め入院となりました。入退院を繰り返す後半の2年間でしたがホームに戻った時には静かな余生という感じでした。

我が支援ハウスには認知症以外の高齢者も暮らしています。Wさんは認知症もありませんでしたし、様々な事情から在宅で暮らせない。地域では暮らしたくない人もいるのです。500人以下の町で暮らす人にとっては地域密着型の弊害も出始めています。人生の最後くらい自分の希望する地域で暮らせるべきです。W氏のようにえりも町から新ひだか町に来る人も居れば、「新ひだか町の特養にはいつ入れるか解らないので札幌で探します」の相談もあった。